活動レポート

羅臼岳登山道でのヒグマ人身事故を受けて

～再発防止に向けた取り組み～

文章　金川 晃大（事業部 参事）



はじめに

昨年8月14日に発生した羅臼岳でのヒグマ人身事故を受け、関係行政機関と知床財団で構成する知床ヒグマ対策連絡会議（以下「対策連絡会議」）では、事故の検証と再発防止対策の検討を進めてきました。

対策連絡会議の構成団体の一つとして、国立公園の管理とヒグマ対策を担う知床財団は、事故発生直後から、被害者の捜索や加害個体の捕獲から事故現場の調査・検証、再発防止対策の立案・実施に至るまで、主体的に取り組んできました。

今年7月の羅臼岳の山開き以降、再発防止対策の重点施策の一つである「登山者への情報提供」にも現場対応を担う立場として取り組みを進めてきました。

登山者への情報提供

登山者には、登山に必要な基本的な準備事項や心構え、現地のヒグマに関する最新情報を把握した上で、登山を行うかどうかを適切に判断してもらう必要があります。

登山者に提供すべき情報には、入山前に把握しておくべき現地情報や推奨される行動、装備等の基礎情報（静的情報）のほか、日々変化する天候や登山道の状況、ヒグマの出没状況や季節的な動向等の最新情報（動的情報）があります。こうした情報を、登山者が入山するまでの過程において、「どこで」「どのように」届けるかが重要です。そのため、登山の計画段階から入山直前まで、様々な媒体を通じて必要な情報が登山者に確実に伝わるよう、効果的な情報提供の仕組みと実施体制の構築を目指してきました。

登山者が自宅を出発する前に必要な情報を得られるよう、登山に関する静的情報を網羅的に掲載した知床国立公園の登山情報サイト「知っておくべき知床登山の心得」が新たに開設されました。また、従来から知床財団が運営してきたヒグマ情報サイト「知床のひぐま」と、知床の観光情報や施設の開閉



▲知床情報玉手箱の登山情報



▲対策連絡会議が発信している登山道におけるヒグマ情報

状況をリアルタイムで発信する総合情報サイト「知床情報玉手箱」についても改修を行い、登山者への情報発信を強化しました。

これらの媒体では、登山者が事前に把握すべき基礎情報に加え、登山道周辺におけるヒグマとの遭遇リスクを4段階の警戒レベルで示す「ヒグマリスク情報」を発信しています。ヒグマリスク情報は、直近のヒグマの活動状況や季節的な行動傾向、登山者から寄せられた目撃情報等をもとに、「知床のひぐま」と「知床情報玉手箱」で1～2週間に1回程度、定期的に発信しています。また、登山者とヒグマとの危険な遭遇事例や特に留意すべき事象が発生した場合には、その都度リスクの程度を評価し、迅速に情報を更新しています。

加えて、知床国立公園内の各登山口に新たに整備された情報提供施設に静的情報と動的情報を掲示し、入山直前の登山者に対しても安全対策の充実や入山の可否の判断に役立つ情報の提供と注意喚起を行っています。

知床におけるヒグマリスクの評価基準

LEVEL4　極めて危険
ヒグマによる人身事故の可能性が極めて高く、登山口が閉鎖の状態。新たな入山は不可。

LEVEL3　警戒
「人を恐れない、逃げない」等の危険なヒグマ（問題個体）が確認されている状態。

LEVEL2　注意
ヒグマの活動が活発化しており、登山中の遭遇の可能性が高い状態。

LEVEL1　通常
問題個体や危険事例が１週間以上確認されていない状態。

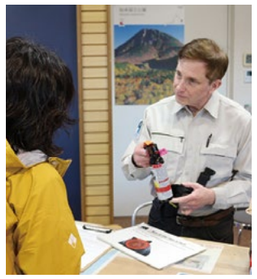
LEVEL0　情報不足、評価無し
ヒグマに関する情報が無い、または運用期間外のため、リスクを評価できない状態。

知床到着前に得られる事前情報 HP 一覧

1 知っておくべき知床登山の心得
2 知床のひぐま
3 知床情報玉手箱

知床到着後に得られるサービスや情報

1 各ビジターセンターでのクマスプレーのレンタル



2 登山口看板での評価基準情報と最新のヒグマ状況



クマ撃退スプレーの普及

ヒグマが高密度で生息する知床の山岳域では、他地域と比べて登山道でヒグマと遭遇する可能性が高く、遭遇時に登山者自身が適切に対処できなければ、危険な状況や人身事故につながるおそれがあります。万が一、ヒグマから攻撃を受けるような状況を想定し、クマ撃退スプレーを携行することが推奨されます。

知床財団が運営する3つのビジターセンターでは、登山者を対象にクマ撃退スプレーのレンタルサービスを行っており、より多くの登山者が利用できるよう、今年から貸出用の在庫を増やしました。また、貸し出しの際には、クマ撃退スプレーの使用方法と併せて、最新の登山道の状況やヒグマの出没状況についても案内しています。さらに、クマ撃退スプレーをレンタルした方には、捜索用GPS発信機「ココヘリ」も無料で貸し出し、万が一の事態への備えを促しています。このように、知床を訪れる登山者に幅広く情報を提供するとともに、安全対策の強化につながるサービスの充実に努めています。

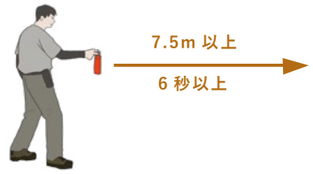
近年、全国的なクマの出没や被害の増加に加え、昨年発生した羅臼岳でのヒグマ人身事故の影響もあり、クマ撃退スプレーの普及が急速に進んでいます。一方で、適切な製品の選び方や正しい使用方法を十分に理解していない登山者も多く見受けられます。こうしたクマ撃退スプレーをめぐる課題は知床に限ったものではなく、社会全体の課題となっています。このような状況を受け、今年8月には環境省がクマ撃退スプレーの推奨要件を示すなど、国としても課題解決に向けた取り組みが進められています。



▲知床財団が貸し出しを行っているクマ撃退スプレーとココヘリの発信機

環境省が推奨するクマ撃退スプレーの条件（一部抜粋）

常温・無風の条件下で、噴射距離 7.5 m 以上、噴射時間 6 秒以上の要件が両立されること





含有濃度：CRC（カプサイシン・関連カプサイシノイドの濃度）1.0 ～ 2.0%程度が目安

円錐状に広がる霧状（ミスト状）噴射であること、空気中に滞留しやすい微細な粒子が噴射されること
※棒状の液流タイプは非推奨

詳しくはこちらをご覧ください▶

環境省 HP

今後の展望

登山者への情報提供やクマ撃退スプレーの普及活動を進める一方で、これらの取り組みがどの程度登山者に届き、安全対策につながっているのかを検証することも重要です。その効果を検証するため、北海道大学の協力を得て、登山者を対象としたアンケート調査を実施しています。重点施策として進めているWeb媒体や登山口での情報提供については、情報を発信・掲示するだけでは、必ずしも登山者の目にとまり、必要な情報が十分に行き届くとは限りません。また、情報が届いたとしても、発信する側の意図した内容が正確に理解されているかという懸念もあります。そのため、登山者に必要な情報がより効果的かつ正確に伝わるよう、発信手法や表現方法を継続的に改善する必要があります。

今後も登山者の声に耳を傾けながら、登山者にとって必要であり、安全対策の強化に資する情報を、より分かりやすく効果的に発信していきたいと考えています。

SHIRETOKO NATURE FOUNDATION

知床財団 活動日記

知床財団のスタッフは普段どんな仕事をしているの？
あまり知られていない日々の取り組みをご紹介します。

海岸に漂着した海獣の回収を補助しました

羅臼町役場からの委託業務のひとつにトド、クジラ等が海岸に流れ着いたときの回収補助があります。

海獣類の漂着は6月から8月にかけて多く発生します。漂着する死骸の種には年によって偏りがあり、今年は、トドが多く流れ着いています。トドは体が大きく、1トンを超えるものもあります。人の力で回収できない時は、クレーンなどの重機を手配し回収します。

命あるものがいつか終わりを迎えるのは自然の摂理であり、本来であれば死骸は動物や昆虫、微生物により分解されていきます。しかし、人の営みのある地域に流れ着いてしまったものは、ヒグマを誘引するきっかけになってしまうこともあります。周辺住民に被害が出る前に漂着した死骸を回収することは、重要なヒグマ対策のひとつです。


漂着したトドの死骸


回収には数人を要します


天然林のギャップに設置したバットディテクター


トンネル内を飛び交うモモジロコウモリ

コウモリ調査開始!

東京大学の森章研究室との共同調査として、コウモリの調査が始まりました!

コウモリが発する超音波は、種ごとに異なります。その超音波を自動収録する「バットディテクター」という機械を16箇所に設置しました。コウモリは森の混み具合や木の大きさ（森林構造）によって、生息する種類が変わります。つまり、それぞれの森の環境に適した種が棲んでいるのです。そこで、どんなコウモリが棲んでいるかを調べることで、私たちが森づくりを進める開拓跡地が、原生林へと近づく過程のどの段階にあるのかを教えてもらう作戦です。

ヒグマやシマフクロウよりも小さくて目立たないコウモリが、知床の森の豊かさを知るための、大きな存在になる日が来るかもしれません。